

近衛新内閣の使命

近衛新内閣の使命... 変遷限りあり... 政治場面の連続を維持... 国家の発展に内外の現状打... 破を先決とし...

近衛新内閣の使命... 斯くて林内閣に入りて... 政治の行き過ぎ... 財政の整理... 国家の発展に内外の現状打... 破を先決とし...

近衛内閣の顔ぶれ決定

親任式は四日に挙行

(東京三日) 近衛内閣の顔ぶれは... 総合し強力内閣組織の案を挙げる... 次期決定し四日前親任式を... 挙行される事とあり...

- 内閣総理大臣 正三位勳二等公近衛文磨
外務大臣 従二位勳一等 廣田弘毅
内務大臣 正三位勳一等 馬場徳一
大蔵大臣 従四位勳三等 賀屋典宣
文部大臣 従四位勳三等 安井英二
農林大臣 正四位勳三等伯爵有馬頼寧
商工大臣 従三位勳三等 吉野信次
逓信大臣 正三位勳一等 永井柳太郎
鉄道大臣 正五位勳三等 中島知久平
拓務大臣 勳四等 大谷曾由
陸軍大臣 陸軍大将 杉山元
海軍大臣 海軍大将 米内光政
司法大臣 海野幸彦

世田日銀総裁留任 賀屋財政に協力

(東京三日) 賀屋大蔵次官は三日... 午後組閣本部を辞去の後、翌日... 世田日銀総裁の留任を懸望した... 此に對し世田と自今の連環の許す...

氣を興へ財界の安定を高め、茲... 國家の生産力充ちを強固する... 新勢力の派に推され財界資本家... は軍需インフレの好例に注目、革... 新勢力への合流を企てるに至り...

近衛新内閣の使命... 変遷限りあり... 政治場面の連続を維持... 國家の発展に内外の現状打... 破を先決とし...

旋風の二三六事件の道後成立... した内閣は革新政策の遂行を... 目標とし、戦時教育、戦時教育...

西野 日亜文化協会... さんどす丸... 六日入港 十日出帆

近衛公組閣の大命を待て

組閣工作着々進捗 七閣僚の決定を見る

陸・海法相は留任

(東京一日) 湯澤内府は近衛公と会見後午後五時六分、参内天皇陛下に拝謁仰付けり、以後極内閣官班に属する御下向に就て、面談等公と協議せる結果、左奉答、極々御下向に奉答の按、御前退下した。この結果、貴族院議長近衛文磨公は同五時四十分御召しに依り、宮中内参内、天皇陛下に拝謁仰付けり、以後組閣の大命を待て、暫時の御前退下を請ひ、御前退下した。

組閣の方針

(東京一日) 近衛公は午後六時、参内天皇陛下に拝謁仰付けり、以後極内閣官班に属する御下向に就て、面談等公と協議せる結果、左奉答、極々御下向に奉答の按、御前退下した。この結果、貴族院議長近衛文磨公は同五時四十分御召しに依り、宮中内参内、天皇陛下に拝謁仰付けり、以後組閣の大命を待て、暫時の御前退下を請ひ、御前退下した。

閣僚の顔ぶれ

近衛公の組閣は二日に至り、順調に進展する。閣僚の顔ぶれは、大體決定した。閣僚の顔ぶれは、大體決定した。閣僚の顔ぶれは、大體決定した。

組閣工作

(東京二日) 近衛公は午前十時、参内天皇陛下に拝謁仰付けり、以後極内閣官班に属する御下向に就て、面談等公と協議せる結果、左奉答、極々御下向に奉答の按、御前退下した。

外相は廣田に決定

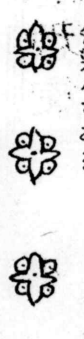
(東京三日) 近衛内閣は外交方針を、其の施政方針の一環として、閣僚の顔ぶれを決定する。外相は廣田に決定した。

蔵相は賀屋大蔵に決定

(東京三日) 湯澤内府は、新日本の舞台、廣田市の出身、青森時代は、分會、学歴の辛酸を、大正六年、東大法律卒業後、大蔵省財務局に振出し、大蔵書記官を経て、予算決算課長となり、赤字財政の立直しに腕を振った。その功績が、主計局長に抜擢され、昭和十一年、理財局長に任ぜられた。

花井園藝家信吉 W.O.B.N. F.C.O. 苗圃に面するエングラシアの土地、花井君は、好適地を買入れ、香畑は、モロシ市、菅原君は、菅原君、Dofu Furukawa, Comisario de Luto, del Matadero Municipal, Capital del Matadero.

入閣者の顔ぶれ、大臣候補者群像、近衛公の組閣は二日に至り、順調に進展する。閣僚の顔ぶれは、大體決定した。閣僚の顔ぶれは、大體決定した。



蹴起した近衛公

財界は挙げて歓迎

(東京三日)ニニ六、事件直後未嘗有の健闘を挙げた近衛公の、幸か不幸か健康勝敗の理由として大命を拜許、後継の椅子は近衛公に譲り渡すことである。

其の一月三日、近衛公の林を経て今日依然たる健闘のスクリーンに彼の健康が長身がノロノロとアツク出て来り、その血脈が、人物の健闘は、當年正に四十七才当に青年清新の総理大臣である。歴代首相中では初代総理の伊藤博文が四十四にして大命を拜許してゐるが、其は表の朝野の記録である。

賀屋の蔵相責任と今後の財政

(東京三日)新蔵相賀屋宣は世界大戦後の景況の絶頂たる大正九年度予算の少額を遺憾に感じ、赤字財政の今日迄支々病より、予算の編成の経験より、その政治的責任を押しつけて、彼の頭のよさを故江木翼が折紙のついで、右し又倫政会派に付いた時若柳全権が感心したと云ふ一事で、明かす。又国防予算の折衝に當りて、陸海軍経理司に、賀屋の管轄

後任貴族院議長は徳川國順公?

(東京一日)近衛公組閣に伴い、貴族院議長の後任に経ては新内閣成立後特別国会召集迄に、貴族院の上上乗御裁可を仰ぎ初め、その苦大、最近数年、貴族院議長委員として各派間に信望篤い徳川國順公の経歴は、乙と同氏の難色ある場合は、細川復立侯が推される。副議長には松平彌壽伯が居る模様である。

今後の財政

賀屋蔵相は従来健全財政と云はれ、その言に拘泥するところなく、増税の必要とあり、公債の増発と必要とあり、防衛充実に必要とあり、只此等の諸般の必要と必要と云ふので、其の間に、彼一流の予算技術の手腕と政治的の操作を操るものなり。

平生凱三郎入閣辞退

(東京三日)近衛公は高相として、元文相平生を起用し、其の意向を組閣の大命を拜許すると共に、電話で同氏の入閣を希望した。平生は文相時代計画した義務教育年限延長案が其のまゝに及びて居る関係上、文相の椅子を希望し、高相はその任に非ざる旨を明かにするに至り、終つて近衛公として、この際是非共平生を高相として入閣せしめ、其の取替

商工大臣は吉野信次

(東京三日)商工大臣には東北興業、吉野信次に交渉する。其の組閣本部は三日午後、福島県に出張中の吉野に対し、至急東京へ電報を發した。同日午後、午後二時、東京の予定。

ACADEMIA DE BAILES
CANGALLO 1279
SARRITA
PROFESORA: SARA MUÑOZ

日本のレコード
特約販賣
コロムビアレコード
藤田書店

懸賞當選讀物

僕に百万バ當つたら

宮本肇

3

前述の如く邦人社会には既に三新聞があり在留民の数は比して過多の声をあげる。然るに他は一つ新たに生れんとして只今準備中の間、特殊新聞ふういざ知らず單なる報道新聞として生れんとするには如何なる主義目的のものがあるか、生れて見だ後でなければ批判は出来ない。自分の希望は常に「形質に拘りず精神にとらはれず情に走りず理に止らす」の「中道実相」の眞理で、望むところは又前者と同じである。

去らぬ頃、石原生氏が「基督」といふ小冊子をものしてゐた。小冊子としては内容も外観も兼備してゐる。其主義目的は邦人社会を啓蒙し善導するにあり、尚邦人同士の結束を正しく批判するにあつた。然かも利害を超越して無償配付であつた。然るに惜しいこと

には其の彗星は幾れ今で時流の潮に入り其の発行者は過去にたゞに悲しむべきである。今はその遺徳を世界に傳へて吾人と同じく邦人社会の健全なる発達のため、内外兼備の権威ある紙張で誕生させたい。斯の如く以上三つの大善と見ては少額でも寸毫もして感謝する。然し第一の希望は違つても畢竟に就いて決して一等船客にはあらぬ。第二は違つても子孫の爲めに美田を買ふ程度にするから百万バの大部分は依然として存せざるべからぬ。

然らば其の大部分を何に使用するか？これは平素の理想実現に向つて投出すことにする。自分の未成時と今日とは思想上若くは変化がある。其当時は「自分が若し百万バに當つたら殆んど其全部を国防献金として祖國に送りたい」と考へてゐたが、今日冷静に考へて見ると當國の国防テリヤで得た百万バを其国防献金として祖國に送つたならば、其れを聞いた當國人は余り好感情をもつまいと云ふことである。帝國公使館か日本人会に其金を送りおいて、邦人將來の發展の爲め何かの方法で提供しても悪いは無い。然し其れでは知恩報謝の意味にはあつない。其誠は如何にも在亞六十年の同胞は實惠から絶對の保護と平等の待遇を求め、民からは絶對の好意を以て持せられてゐる。それらに報いへが爲めには其金で財団法人を組織して次に述べる如れかの事業に尽すことが最善の方法ではあるまいか。

教育々々の事業、社会公衆事業及び病人救済事業の三つである。教育々々の事業は必要で貧困者の子供の秀才の爲めに祖國産の児童館などにある進歩会みた様子を組織して將來人材の養成を努めることである。社会公衆事業は赤貧者救済か或は國民の大多數の利益と便利のため土木事業を起すことである。次に病人救済事業は幾つかの種類がある。邦人社会には既に篤志家達によつて肺病療養所の設備があり現在には日會附屬の二つで該療養所の福音とあつてゐる。この救済園にも若干の寸毫を添ふことを忘れてはあつない。

云ふ風説さへあるが、以上の新説は其の当てる人の手で改善すれば別は困難の事はあるまい。そこで特殊病気の爲めの病院の新設が必要性を感じられて居る。先づ癩患者の爲めに完全なる收容所の建設が猶予の出来ぬ緊急事項であらう。朝々には該患者は余り回りはつかぬと統計の示す所では驚くべき数字に昇り現に收容されざる適当なる治療を受けつつあるものは一少部分に過ぎない。該患者が路傍或は人家の門口に憑みまゐることは遺憾ながら塵埃伝染説が立証された今日では人道に及び衛生上重大な問題である。

次が患者自身も取扱者も困り隣人まで嫌はれる肺患者のたゞの病院建設である。これらも統計によれば驚くべき多數の患者が國內に居り、該病の徹底的治療が及ばずは國民健康上最悪の急である。尚ほ邦人先成者の大半はコルドバ州其他低地適地に該患者の爲めの病院はいくつもあつるが日増しに増える患者の收容には何所の病院も狹隘を感じてゐる。患者は各地から其等の病院を唯一の光明とし慈母と仰いで参集しても名士の紹介状でも持参致さぬ限り即刻に入院の出来ぬ現状である。早期治療が必要とする該患者は病院に入室が爲め使らるる日を過ごし、それが爲め病気が遠

慮なく充進して遂に「肺病不治」の病の苦痛、青春の貴き生命が露と消えて還る家族の嘆泣の声を常に聞く有様である。誠に深く同情し三嘆すべき悲哀事ではあいか。如何に病人と成も涙なくして聞くことは出来まい。

まだ右の特殊病の如れかに對する病院を建設する場合は充分考慮し調査研究を積み其間に當る人も相談して決定を見上る。自分の理想建設を遂げたい大衆の仁心と成の暖正急ぎとして大衆の仁心と成して頂きたい。此れによつて慶喜いよ、至り報恩いよ、成る

ALMACEN NISHISAKA

醬油味噌 製造販賣 漢唐食物 輸入販賣 日本食料品輸入販賣 並甲子醬油一樽五圓 價銀貳圓貳角迅速

西原商店

Belgrano 1470 U. S. B. - Migo - 2438

西和辞典 村岡玄著
其他西班牙語文法書各種
算盤、麻雀 各種

原商店



出武感想

星 野生

汗と恥をかく事は人後に落ちぬが、文字を著くと云ふ事は私に...

した方々に御拝眉の栄を得た事は真に偶然と云はうか、これは突に...

「出武感想」として置くか。運日出武した際旧知の方々の計...

実には吉川兄が領事館員及び松野省員外二名の士とごこかて日本...

運日出武した際旧知の方々の計らひによつて、思ひもよらぬ野生...

早上山と積まれた山海の珍味。林立したホテルで、馬力さか...

関の山、そう云ふ植民地と云うては様式は大変に相違がある。酒...

三十七年前のお盆と正月とが一度に来た様である。懐しき歌、夢...

マは世界人類中に其の比を見ずと謂へる。又この反面一朝事あらは...

音調である。田舎で常にこう云ふ哀愁の満ちた唄を聞き馴らされて...

あけ要雀目にすりこんで仕舞ひけり。彼の陽気な春野原の雲雀、思ひ...

本朝前化が嵩じて来ると恐ろしい様なものだ。親達の面前も憚...

和民の興隆性が自然にその音楽から伝はつて来るやうだ。しはは夢...

お月さん園で見たのもおまいかい。是れは名詞と事、彼の有名歌將...

果敢な心志とあきらめと。果敢な心志とあきらめと。果敢な心志とあ...

是れは亦おんとした事だ。蒔蒔の車さしが出たてはあいか。東北...

それ等から生れ出た道徳感念等。それ等から生れ出た道徳感念等。...

漸くにして睡眠を閉き、又しきり牛飲馬喰に専心したのである(続く)

總額八億四千二百萬ペソ

次年度豫算案議會に提出する
前年度より八百五十九万ペソ増額

從來巨額大蔵省は會計法の規定する期日内に次年度豫算案を議會に提出した事はあつたが、此度始めて之を實行、去る五月三十日に豫算案を議會に提出した。一、九三八年度大蔵省の豫算案は、前年度より八百五十九万ペソ増額である。此の豫算案は、前年度より八百五十九万ペソ増額である。此の豫算案は、前年度より八百五十九万ペソ増額である。

雑収入	四八六六二
専ら主は合計八億四千二百五十二万二千四百ペソとあつてゐる。一九三八年度大蔵省の豫算案は、前年度より八百五十九万ペソ増額である。此の豫算案は、前年度より八百五十九万ペソ増額である。	
内務省	一、二九九四七
外務文化省	八九一六
大蔵省	三、四五六六
司法文教省	一、〇〇八四五
普通教育院	一、一八七二六
陸軍省	八、九二五一一
海軍省	六、一〇七六
農務省	二、七五一一〇
土木省	二、九六〇七
其他恩給、社会救恤費、未払経費等總括して前記總額とあつて居り、各省豫算案と全面的に一九三七年度に比し一割内外の増額を見せられてゐる。而して國庫歳入に於ては、税関増徴収入 三五〇、〇〇〇、消費税 一、四四五六五、所得税 九八、〇五〇、印紙収入 五八、〇三〇、郵便電信収入 三五五五。	

其他之に關係ある事項に就いて下院より報告を求め、事にし、總て社会党議員アメリ、土木省の巨大な建物、莫大の電力を必要とするが、何故に其自体の発電装置を備へずして電力供給をイスタンブール、アメリカ、イタロアルペン、イナ、両会社に頼むか、何が故に其等会社と土木省は契約を交はしたか、に就いて質問、十六日土木大臣の答弁を求め、事とある。続いてラケル党のノブレは、サンチヤゴ、エルネステロ選出下院議員、丁、バカストロは議員たるの資格なし、不法選挙である、と述べて、同氏が同州知事として在任中に在る、非行行為を挙げ、今、選挙に於ける醜態を暴露、此に對して、カストロより反駁あり、結局、同氏の議員としての資格、格有無を果決せんとし、たが、議員定数に充たざりしため、その返答、有無無効の内に同会である。

農民金融、土木省の電力議員資格問題
二日下院は午後四時開會、先づオルネ議員の動議によつて農民金融をより組織的に行ふ必要があることの見地より農民金融に關するナシオン銀行の規定、実施方法

國民々主党の大統領候補 現閣僚オルニス、カルカノ農相か?
衆議院の大統領候補として、現閣僚オルニス、カルカノ農相か? 衆議院の大統領候補として、現閣僚オルニス、カルカノ農相か? 衆議院の大統領候補として、現閣僚オルニス、カルカノ農相か?

藤倉選手退亞
亞国足球選手権大会に夫人同伴で出場のため、未だコートでの形として、一俵の人氣を一人で奮闘、スポーツ日本のため、万々の氣を吐いて、呉れた藤倉選手退亞は、去る一日午後九時、出帆のコンテナーで、夫人同伴、伯國選手アロコ、ピオ、同船伯國に向け退亞した。埠頭には日本足球俱樂部員、亞国足球協會員、其他内外人多数の見送りがあつた。

KEROFIX
DEL SR. ALEMAN (MARTIN)
M. SEITZ & Cia
EXPOSICION Y VENTA TALLERES
DEFENSA 321 CHARCAS 4511
U.T. 33-AV. 1529 U.T. 51-9938

フランケヤ機、カルテラ、用りケマドール、ステコロセン、製作販売、修繕、並に取付交換格安にて引受ます。
当方はカーサ、ホルカン、以末、御期、築五のドイツ人、日本人、諸君、同に、数多の顧客、至有し、仕事は、入念、迅速、電話で御一報、次、至急、参上致します。

ケロフェイス商会

日本建築 文化住宅 建築
家具修繕、其の他、何卒御用命願ひます。
大工指物師 山本 玄
No. del Tigar 4817
R. S. P. H. (Shiraha) 3150

市長の横暴専断を鳴らす

七月九日通り開設を繞つて

武市行政部と市会の対立尖鋭化

武市に蕨地帯を横断する新道アベニゲ、ヌエベテリオリの開設工事は夜を日に次いで進捗し、十月下旬には第一次計画即ちツグマン街ハルトロメ、ミトレ街に亘るカルロスベリエグリニ街及びセリット街間の家屋取崩しを完了、開通式を行はんとする予定の下は市行政部には花園丸の道道地帯を中央に有する一町幅の豪華道路開設及び其の地下に自動車、馬車、自転車、交通地帯のアラサレ、アラカ即ち方尖塔の地下地帯には歩行用道路開設、其の両側に理髮店、靴店、風呂、花屋、菓子店、他商店の開設等々を実行の果て案を立て、通釈発表したが、其等の案は總て市会が協賛を経たるもの非ず。

市行政部の独断

以つて殊状突

つ、あるのであつて、此の兵に用い去る一日の武市々会に於ては果然大問題となり、社会党出陣市会議員を急先鋒として右は市会が限りの蹂躪であると市行政部の横暴専断を鳴らして感憤然。

(一) 想像外の莫大の費用を要する幅一町と云ふが如き大道は現在武市が必要とするや否や

(二) 市行政部の企劃する一町幅道路

日亜文化協会の日本語講習会開講式

既報、日亜文化協会の日本語講習会開講式は去る一日午後六時二十分より花園文化協会内に於て開演者内外人約二百名(邦人約廿名)列席の下に盛大に挙行された。

席上先づ日亜文化協会長ドモックカルシア提督立って開会の辞に代へて日亜文化協会の事業経過を報告し、日本語講習会の発達のた

めは尽力されたる在日日本公館員諸氏の努力と誠意を感謝すると述べ、新講師野村宗次郎氏並に新設の日本文学講座擔任講師古川

シニケルト会社との間に契約を結んだが、右は行政部が土木業者間に於ける入札は行はず独断的に行つた事であつて、同会社に対する特恵と見做し得るものであり甚だ不当である。

市行政部及市長攻撃の矢が放たれ、一議員の如きは、市長は此項横暴は土木工事と起すが其は大統領選挙前に控へて政党内閣高む折柄党費提出の具は供されるのでは否いか。

市行政部は既に新道の鋪道工事に關し五月十九日シニケルト

等藝術家連の有志一同の主催で、本五日午後九時より市内サルミエント街とウルグアイ街の料理店スカイダイに於て盛大に送別会を開き、席上出席者一同はベルガミノノに着発、之を記念として白井氏に贈る由である。

地下鉄新線開通

現在ニ

イツシオン及びレテリオン間の地下鉄を經營してゐるヤドピア会社は予てよりカビルド、サンタフェ街を走りベルグラーノに至る地下鉄新線を計画工事を着手したが、第一期工事はアラマージョを起矢とするフロリダ街經由の新線は去る三日午後四時よりカルロス、ベリエグリニ(ラケセ)地下鉄と交叉)まで開通した。

不運な邦人家族 踏切で汽車に轢かる

フロレンシオパレラ、モンテベルデ街に於て蔬菜園を經營してゐる邦人比嘉盛永(五九)氏は、去る三十一日午後一時十五分頃家族同伴カミオンにて親類訪問の途中アロビシニアアエスアイレス鉄道モンテベルデ駅を去る約一料の地奥の踏切を通過せんとした刹那踏切がラタラタと響き渡る中、カミオンが衝突、カミオンは粉砕された。同氏は始め同乗の妻カマツ(三七)さん、四女テレサ(五)さん、七女ロサ(二)さん等は何れも重傷を負ひ直ちにキル

大阪商船支店移転

既報、大阪商船会社武市支店は予定の如く去る一日、ロックサエンスベニヤ街六一六番地二階に移転を完了し事務を執つてゐる。電話番号は従前通りである。

安東商店の移転

現在ベルナルド・デ・イリゴエン街一四三番地に盛業中の安東商店は事業の發展と共に店舗の狹隘を感し今回デフエニヤ街五三二、四番地の大口カルに移転、事業の拡張を計ることとなり、数日前より移転開始。本月中旬頃に移転完了の由である。

コルドバ日会司會 故大城守吉氏追悼會

去る六日午後三時よりコルドバ日本人会司會の下に、去る五月十七日午後六時香港に於ける豊島丸爆撃により遺孀不幸岡本重子の追悼會を兼ねて大城守吉氏の追悼會を故人の宅前市ツグマン街三二番地に於て挙行する。石井忠吉氏(夫)家族同伴本日入港のサントス丸で岡本重子の追悼會

(五) 伏見貞造氏回船で岡本重

欧洲政局の立役者

危い輕業師

シユニツグ博士の特殊フオ...

ス

ソリーニを始めとし、トルコ...

のシヨードニ、アルガリヤの...

独裁官であり歐洲の噴火山に...

シユニツグ博士の野心は政...

一九三四年夏、突如としてウ...

シユニツグ博士の野心は政...

KEROFIX DEL SR. ALEMAN 製品の販売並に修繕取付交換等價引受け

高等御下宿 Pension de Primer Orden 寄附者芳名第三回発表

Instituto Cultural Argentino - Japonés

Ha iniciado la actividad del año el Instituto Cultural Argentino-Japonés del Museo Social Argentino, con la apertura de los cursos del idioma y literatura japoneses que se realizó en un acto especial el martes 1.º de junio. Concurrieron al acto, especialmente invitados, el Encargado de Negocios del Japón, Dr. Hirobumi Terajima presidente del Museo Social, Dr. Tomás Amadeo, Miembros de la Comisión Directiva y numerosos socios y alumnos con sus familiares.

Abierta la sesión, el presidente del Instituto, almirante M. Domecq García, hizo una breve reseña de la obra del Cultural Argentino Japonés, y se refirió a la lenta, pero firme progreso del curso de japonés establecido hace tres años, encareciendo a todos los socios y amigos para que cooperen con el entusiasmo del principio de la organización de la entidad nacida espontáneamente como una expresión genuina de la simpatía del pueblo argentino hacia el Japón, agradeciendo especialmente al señor Encargado de Negocios que honra con su presencia y la eficaz colaboración de la Legación del Japón, por la marcha de la Institución.

Hizo uso de la palabra, después, el doctor Terajima que realizó la importancia de la obra del Instituto y formuló votos por su éxito. Dijo también el representante oficial del Japón que el estudio del japonés no era tan difícil como se suponen generalmente los que no están familiarizados con él, que con buena voluntad y paciente dedicación no podía resultar tan trabajoso para el que posee el castellano, idioma que cuenta con decenas de millares de palabras.

Luego de declarar abiertos los cursos de idioma japonés y de literatura japonesa, a cargo del profesor Eijiro Nomura y señor Takeshi Furukawa respectivamente, el almirante presentó al auditorio al orador del día, señor Ken Usui, cuya conferencia publicamos más adelante, en síntesis.

Una vez terminada la disertación del señor Usui, accediendo a pedido del auditorio, habló el señor Furukawa, que tiene un acento bien español, breves palabras de salutación diciendo que haría lo mejor posible para desempeñar satisfactoriamente el cargo aceptado de dictar el curso de literatura japonesa.

Evolución del idioma Japonés y la difusión del mismo en el extranjero

Resumen de la Conferencia del señor Ken Usui

En ocasión de la apertura del curso del idioma japonés, disertó el señor Ken Usui, Secretario de la Legación del Japón, sobre el tema: "La Evolución del idioma japonés y la difusión del mismo en el extranjero", he aquí su resumen: Comenzó su discurso, el señor Usui, remontándose a la época de la fundación del Imperio por

Jinmu Tennó hace 26 siglos, diciendo que los habitantes del archipiélago poseían ya su idioma propio marcadamente diferente de los de sus vecinos.

Los japoneses no conocieron ninguna escritura hasta que recibieron las letras chinas introducidas por los coreanos en el siglo III de la era cristiana. Los caracteres chinos son de naturaleza ideográfica y cada letra o signo representa una palabra o idea.

Los japoneses que aprendieron las letras chinas, hicieron uso de las mismas para aplicarlas a su propio idioma, valiéndose de los dos modos siguientes: o dándole la pronunciación japonesa, de acuerdo con el significado de la letra, o haciendo de ella simple signo fonético para escribir las palabras japonesas, sin tener en cuenta el valor representativo del signo en chino, combinando ambos para formar una literatura "sui generis" japonés. Los primeros libros en japonés fueron escritos por ese método, según consta por el "Kojiki". Crónicas Antiguas del Japón, publicado en 712 y que es el libro más antiguo del Japón que existe.

Pero las dificultades del aprendizaje de millares y millares de signos chinos, dieron motivo para que los japoneses se ingeniaron en inventar otros modos de escribir más sencillos. Así nació en el siglo VIII el silabario compuesto de 50 signos simplificados y derivados de caracteres ideográficos chinos, que componen el alfabeto fonético japonés, llamado "Kata-Kana". También habló de otro silabario de 48 signos debidas al célebre sacerdote budista "Kó-Bó" y calígrafo de fama, que como tal, hizo de la letra un arte. Ambos silabarios están en uso, indistintamente, hasta el día de hoy.

La aparición de las letras japonesas que coincidió con el florecimiento de la literatura nacional en oposición al clásico chino, no sólo dio la época brillante de las bellas letras llamada de oro de las Cortes de Nara y de Kioto, sino que consolidó la literatura nipona que tiene características genuinas por su sencillez, sugestividad y gracia, como se comprueba con las obras maestras de aquella época que constituyen la joya literaria del Japón, reconocidas en el mundo entero: "Genji-Monogatari" de Murasaki Shikibu, "Eiga-Monogatari de Akazome-Emon", "Makurano-Soshi" de Seishonagon, etc.

Los libros y diarios modernos se escriben combinando los signos ideográficos chinos que forman el cuerpo principal, con los silabarios que los complementan para formar las oraciones.

Luego de explicar rápidamente, pero en forma amena la evolución de su larga historia, sin dejar de señalar las múltiples influencias extranjeras bien aprovechadas, habló de la reforma moderna iniciada por Bimyo Yamada que hizo revolucionar la literatura japonesa, simplificando la composición y estilo del lenguaje escrito para asimilarlo en lo posible al idioma hablado. Y para terminar la primera parte de su conferencia, el señor Usui, agregó: "El idioma japonés de nuestro siglo, es la expresión de elevada cultura que han llegado a tener, por su incansable esfuerzo, los hijos del Imperio del Sol Naciente que han sabido absorber la civilización del Oriente y del

Occidente en todos los tiempos. Por eso es lindo y refinado el lenguaje que hablan los nipones y que quieren aprender muchos extranjeros.

Al describir la difusión del japonés en el extranjero, abundó en interesantes anécdotas y se refirió entre otras cosas a la misión jesuítica de San Francisco de Javier, que llegó al Japón en el año 1549, para citar que en la Biblioteca de Lisboa existe un diccionario japonés-castellano hecho por un miembro de esa misión, diciendo que los primeros extranjeros que tuvieron interés en aprender el japonés han sido los españoles y portugueses, es decir, los antepasados de los latino-americanos.

Puso de relieve la importancia del Japón actual en el mundo y la utilidad del conocimiento de su idioma que es cosa reconocida por todos los estudiosos de Europa y Norte América, y tuvo frases amables para con el Instituto Cultural Argentino-Japonés por haber creado hace tres años el curso del idioma japonés, que se desenvuelve maravillosamente, prestando de ese modo cooperación valiosa para el estrechamiento cultural y espiritual de ambos pueblos.

El señor Usui fué largamente aplaudido al terminar.

CURSO DE LITERATURA JAPONESA

La inauguración del curso de literatura japonesa, en castellano, que acaba de instituirse en el Instituto Cultural Argentino Japonés, es un acontecimiento digno de todo encomio, y es un paso grande en el desarrollo de la obra cultural de la Institución nombrada.

La literatura japonesa, plena de gracia y de refinadas delicadezas, es la expresión de una de las civilizaciones más grandes del mundo, según declara el crítico de nuestro colega "La Prensa" al comentar el libro del señor Kuni Matsuo, escrito en francés que se titula: Historia de la literatura japonesa.

Conocer la literatura de un país significa comprender su modo de vida, sus pensamientos, su cultura en fin.

Tuvo suerte la Institución en obtener la colaboración del señor Takeshi Furukawa, cuya habilidad lingüística y conocimientos literarios que cultiva con vocación, son adquisiciones poco comunes que tienen necesariamente que dar frutos excelentes.

Los cursos de literatura serán dictados en el local del Museo Social, calle Viamonte 1435, una vez por mes. La Secretaría anunciará oportunamente los días que se fijarán, que serán probablemente: segundo sábado de cada mes.

PRINCIPE KONOYE, PRIMER MINISTRO

Tokio, junio 1.º. — El emperador Hirohito ordenó al príncipe Fumimaro Konoye, presidente de la Cámara de los Pares, formar gabinete en reemplazo del ministerio del señor Hayashi, que presentó su renuncia ayer. Se informa que el príncipe Konoye tiene la seguridad de contar con el apoyo, no sólo de los principales partidos políticos, sino también de poderosos "leaders" militares.

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR



RADIO
EXCELSIOR

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD.



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 o/o de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

CAIDA DEL GABINETE HAYASHI

Tokio, mayo 31. — El gabinete que preside el general Hayashi presentó la renuncia, después de consultar con el Emperador, ante la amenaza de recibir en la Dieta un voto adverso de los dos principales partidos.

Después de cuatro meses de tiroteo político, Hayashi trató de orientar el gobierno hacia un carácter extra-parlamentaria, apoyando la política del ejército y la armada, pero encontró tenaz oposición en los dos grandes partidos, el Minseitō y el Seiyukai.

TRATADO DE COMERCIO URUGUAYO - JAPONES

Montevideo, 1.º (Esp.). — En la sesión efectuada por la Cámara de Diputados, fué sancionado el proyecto de ratificación del tratado de comercio y navegación suscripto con el Japón.

RECEPCION EN LA LEGACION DEL JAPON

El 20 de mayo próximo pasado, el Encargado de Negocios del Japón, Dr. Hirobumi Terajima, ofreció en su residencia de Belgrano, una recepción en honor de los miembros de la Comisión Directiva del Instituto Cultural Argentino-Japonés. Concurrieron también numerosas personas de amistad del diplomático y la fiesta resultó, como toda reunión de la Legación Japonesa, muy agradable y, sobre todo simpática por el móvil de la misma.

El Dr. Terajima que es un artista innato, ofre-

ció en esta ocasión una sorpresa para los concurrentes, que fué muy celebrado: exhibió en uno de los salones, una colección de plantas y flores arreglados de acuerdo con el arte clásico del Japón, obra de un profesional recién llegado, siendo muy admirados.

LLEGO EL NUEVO SECRETARIO DE LA LEGACION

Llegó el 27 de mayo, procedente del Perú, el nuevo secretario intérprete de la Legación del Japón, señor K. Hosokawa, acompañado de su familia. El señor Hosokawa reemplazará al señor Usui, que partirá al Japón en uso de licencia.

EL GOBERNADOR DE MENDOZA, VISITO LA FINCA DEL Sr. HOSHI

El 24 de mayo, la finca Los Nogales del señor Seizo Hoshi, nuestro compatriota establecido en la provincia de Mendoza, ha sido honrada con la visita del gobernador de la provincia de Mendoza.

El señor Hoshi, fué muy felicitado por el Gobernador Cano y su comitiva, por la excelente condición de su establecimiento.

LA VISITA DEL Sr. JIRO FUJIKURA A BUENOS AIRES

La brillante actuación del tenisman señor Jiro Fujikura, venido a ésta por invitación especial del Buenos Aires Lawn Tennis Club, que cons-

tituye el tema principal del mundo deportivo del momento, dejará grato recuerdo entre los aficionados de ese elegante y popular, tanto en Buenos Aires como en todo el continente Sud Americano, donde todavía se acuerdan la visita del campeón Shimidzu, de hace más de 20 años.

"CARAS Y CARETAS"

La prestigiosa revista semanal "Caras y Caretas", que a menudo publica notas sobre el Japón, en su último número y firmada por "La Dama Duende", trae un recuerdo del doctor Tadasu Saiki, célebre especialista en la ciencia de nutrición que estuvo en Buenos Aires, en 1927.

VOCES AMIGAS

"La Prensa", en su número del viernes 28 de mayo, nos dedica amables frases, que nos alienta. El "Argentin DjiJo" agradece la felicitación y los buenos deseos del gran diario argentino.

ANIVERSARIO DE LA BATALLA DE TSUHIMA

En ocasión del aniversario de la batalla de Tsushima, el 27 de mayo próximo pasado, el agregado naval a la Legación del Japón, capitán de navío Hanada y señora, reunieron en su casa a un grupo de sus amistades connacionales para celebrar la fecha gloriosa de la marina Imperial, que lo es del Imperio.

<p>"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p>A. HANAFUSA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469</p>	<p>F. KANEMATSU y Cia. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p>S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 38 Avda. 5744</p>
<p>K. ANNO The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p>	<p>S. YAMADA y Cia. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p>	<p>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p>H. KATO Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p>IIDA y Cia. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 38-2688</p>	<p>Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p>R. HARA y Cia. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>	<p>S. ANDO y Cia. Importadores BERNARDO DE IRIGOYEN 148 U. T. Mayo 38-1402</p>	<p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193.</p>
<p>KATSUDA y Cia. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 38 Avda. 9782</p>	<p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336, U. T. 31-3193.</p>
<p>B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p>S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cia. CANGALLO 489 3er. Piso Escr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. — U. T. 33-1452.</p>
<p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p>TARO MURAI Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3180</p>	<p>K. YASUNAGA Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 36-7769</p>	<p>INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</p>
			<p>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4893.</p>
			<p>COMPARIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3566</p>